

令和5年度

《第1回 iP class 選抜入試》

国語

時間50分，100点満点

受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。
記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも回収します。

郁文館中学校

一 次の各問に答えなさい。

問一 次の①～⑩の——線部のカタカナを漢字で書き、——線部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- ① このような事態は決してヨウニンできない。
- ② 弟の描いた絵が美術テンラン会で入選する。
- ③ たくさんのコクモツを外国から輸入する。
- ④ 組織の体制をサツシンして変化に備える。
- ⑤ いとこのハクシキには本当に驚かされる。
- ⑥ 気持ちをフルい立たせて勝負に向かう。
- ⑦ 何事もなかったかのようにヨソオう。
- ⑧ すてきなメロディをカナでる。
- ⑨ 国のために身をこなにして働く。
- ⑩ 彼女は愛の権化を自称している。

問二 次の①～⑤のことわざ・慣用句の空らんにはまる語をそれぞれア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ① 「 」百まで踊り忘れず
ア 雀すずめ イ 鼠ねずみ ウ 蛙かえる エ 燕つばめ
- ② ぬれ手で「 」
ア 泡 イ 河 ウ 粟あわ エ 川
- ③ 「 」の功名
ア 火事場かじば イ 医者 ウ 出陣 エ 怪我けが
- ④ 習い「 」となる
ア 人 イ 性 ウ 仁 エ 聖
- ⑤ 一寸の「 」軽んずべからず
ア 大小 イ 光陰こういん ウ 正邪せいじや エ 是非

二 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

科学研究は、例外的な*₁一例観察だけから結論を出すことはできない。再現性、「A」同様の現象が何度も観察される必要がある。何度も観察するとなると、今回のように、極端に暑い日に*₂α雄が縄張り行動を一時的にやめていた、というような偶発の出来事に頼るわけにはいかない。複数回におよぶ実験が必要となる。ここで活躍するのが、サンプル採集のために見つけた、檜川村の谷だった。ここは縄張りの数もチョウの数も多いので、実験数をこなすには最適の調査地なのだ。

長野市での観察を再現するために、次のようなα雄除去実験を計画した(図1)。まず、ある縄張りのα雄を捕獲して、網かごの中に入れておく。空になった縄張りであれば待つていると、*₃β雄がその縄張りを占有する。①そのβ雄に縄張りを四〇分間占有させた後で、網かごを開けて、捕獲していた元のα雄を*₄リリースする。縄張りに戻ったα雄がβ雄の視界を横切ると、β雄が反応して二頭の間で*₅卍巴飛翔が起るので、その継続時間と結果を記録する。(あ)

次に、そのα雄をもう一度捕獲する。空になった縄張りであれば待つていると、他のβ雄がその縄張りを占有する。その雄に縄張りを一分間占有させた後で、捕獲していたα雄をリリースする。α雄がβ雄の視界を横切ると、二頭の間で卍巴飛翔が起るので、その継続時間と結果を記録する。(い)

つまり、縄張りでの滞在時間が四〇分のβ雄と一分のβ雄で、α雄との闘争の様子が変わるかを比較したのだ。「B」、滞在時間四〇分とは、長野市で観察した事例を真似たものであり、滞在時間一分とは通常に近い状態、つまり縄張りに飛来したβ雄が、すぐにα雄に見つかる状況を真似たものである。これを一セットとして、合計七セットの実験をおこなった。(う)

とあっさり書けば、実験は予定通りこなせるものと思うかもしれないが、②そんな都合よくことが進むわけではない。そもそも、捕獲したα雄をリリースしたからといって、自分の縄張りに戻ってきて、そこにいるβ雄と闘争する保証はない。捕獲ストレスのせいで、②一目散に逃げてしまつて戻つてこないかもしれない。もちろん、個体識別のために捕獲して油性ペンでマークしたα雄をリリースしたら、そのまま縄張り行動することはわかっていたから、捕獲ストレスのために縄張りに戻つてこないことはないだろうとは思っていた。「C」、個体識別するときは、捕獲してマークを付けたらすぐにリリースするが、α雄除去実験では一時間も捕獲してからリリースすることになる。リリースした後と同じように行動する保証はない。(え)

さらに、α雄を捕獲した後をやつてきたβ雄が、縄張りを一定時間占有していることを確認しなければならぬ。β雄がすでに個体識別された個体なら問題ないが、個体識別マークの付いていないβ雄が縄張りに来たら、本当にその個体がα雄をリリースするまで縄張りを占有していたかを確認することは簡単でない。α雄を捕獲している間に他の雄と争えば、どちらが縄張りに戻ってきたかが簡単にはわからないのだ。かといって、個体識別されていないβ雄を捕獲して個体識別マークを付けると、実験に大きな攪乱を与えてしまう。仕方がないので、翅の破れや傷の位置から、何とか実験中だけは、縄張りを占有して

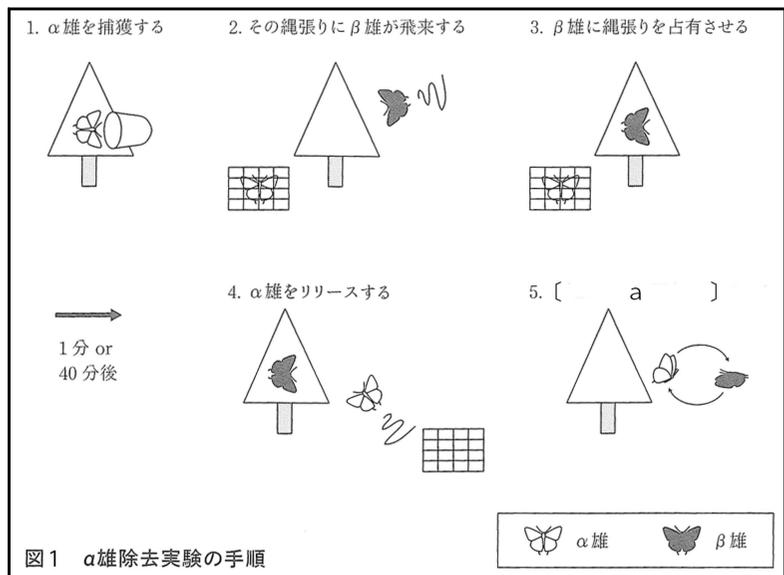


図1 α雄除去実験の手順

だと思った方がいい。メンタルの弱い人だと、シーズンの半分を過ぎた時点で実験ができないと、計画が悪かったとあきらめてしまうかもしれないが、③そういうメンタリテイでは不確実性の大きい自然界で研究はできない。(か)

不運にもめげずに実験を続けたご褒美ほうびというわけではないが、(イ)目論見もくろみ通り実験は成立した上に、得られた結果は明確だった。いずれの闘争でも元のα雄が勝ったが、闘争時間は、四〇分滞在したβ雄で平均八分ほど、一分間滞在したβ雄で平均一分ほどだった。つまり、長野市で偶然観察した事例が再現できたのである。予想通り、④ある縄張りを占有した時間が長くなるにつれて、その縄張りをめぐる闘争から引き下がりにくくなること
が明らかになった。

(竹内剛『武器を持たないチョウの戦い方』による)

〔注〕*1 一例観察 | α雄が暑さのために縄張り行動を休止していると、β雄がやってきて六〇分も縄張りを占有し、結果としては通常通り元のα雄が縄張りを取り戻したが、卍巴飛翔の時間が通常より長く、普段数秒で終わるところが数分間も続いた長野市での一件を指す。この現象を観察した筆者は、縄張りを占有した時間が長くなるほど、縄張り争いへの動機づけ(やる気)が上がるのではないかと考えた。

- *2 α雄 | その縄張りで最上位の雄。
- *3 β雄 | α雄ではない雄。
- *4 リリース | 解き放つこと。
- *5 卍巴飛翔 | チョウの雄同士が互いに相手の周りを飛び回る行動。
- *6 メスアカミドリシジミ | チョウの種類。
- *7 フィールドワーク | 現地で直接、観察、採取などを行なう調査手法。

問一 〃線部X「二目散」・Y「目論見」の本文中での意味として最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|---|-----------------|---|---|----|
| X | ア | いっせいに走り出すさま | Y | ア | 計画 |
| | イ | わき目もふらずに走るさま | | イ | 予想 |
| | ウ | 突然走り出すさま | | ウ | 記憶 |
| | エ | 一つの目的地を目指して走るさま | | エ | 想定 |

問二 空らん「A」～「C」に当てはまる語として最も適切なものを、次のア～カからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。(同じ選択肢せんたくしを繰り返し使うことはありません。)

- | | | | | | |
|---|------|---|------|---|-------|
| ア | もちろん | イ | なぜなら | ウ | したがって |
| エ | やはり | オ | つまり | カ | しかし |

問三 本文からは次の一文が抜け落ちている。本文中の(あ)～(か)のうち、どこに入れるのが最も適切か、記号で答えなさい。

つまり、デザインした実験が成立するかどうかは、事前にはわからなかった。

問四 図1の空らん「 a 」に当てはまる一文を本文中の言葉を使って答えなさい。

問五 ——線部①「そのβ雄」は何を指しているか。本文中の言葉を使って十五字で答えなさい。(、や。や「」を使ってはいけません。)

問六 ——線部②「そんな都合よくことが進むわけではない」とあるが、それはどうしてか。一〇〇字以内で答えなさい。

問七 ——線部③「そういうメンタリテイでは不確実性の大きい自然界で研究はできない」というのはどうしてか。その理由として最も適切なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 自然界でのフィールドワークにはアクシデントは付き物で、予定通りに研究が進む方が稀であるため、先の見えないことに不安を覚える人は研究に耐えられないから。
イ 自然界でのフィールドワークは予定通りに進まないことが多いが、どのような不運な状況になってもあきらめない研究者にこそ周囲は協力するから。

ウ 自然界での研究は予定通りに進む方が稀で、思い通りにいかない中でも突然研究が進むこともあるため、途中であきらめる人は発見の機会を自ら手放すことになるから。

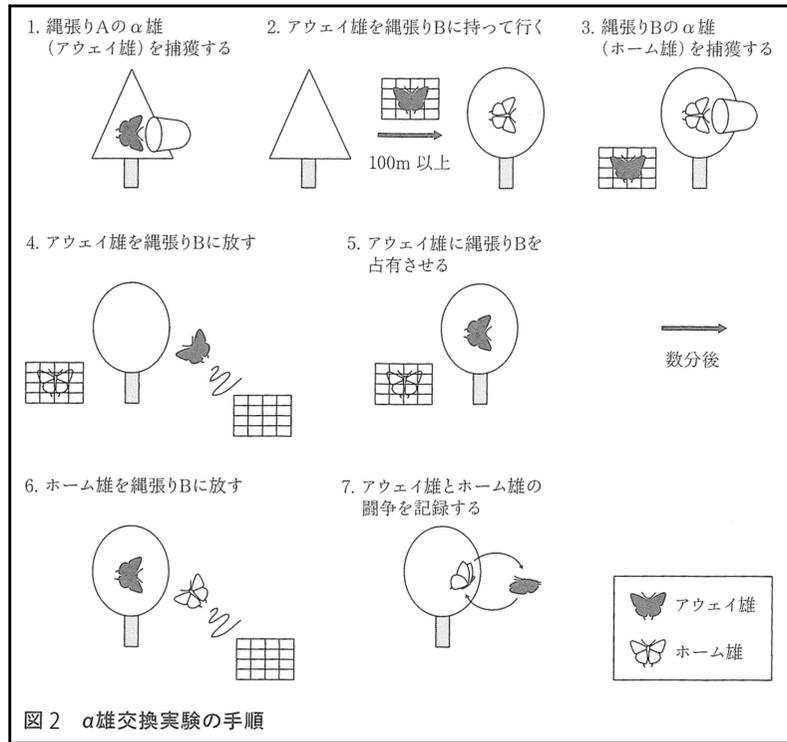
エ 自然界での研究は、最初は思い通りにいかないが途中から計画通りに進むものであるため、ねばり強く研究を続けることのできない人には不向きといえるから。

問八 — 線部④「ある縄張りを占有した時間が長くなるにつれて、その縄張りをめぐる闘争から引き下がりにくくなる」ことが明らかになった」とあるが、筆者は「α雄除去実験」では不十分だと考えて、「α雄交換実験」(図2)を行なった。後の文章と図2を参考にして、「α雄除去実験」では不十分な理由を空らんにかうように答えなさい。

α雄除去実験では不十分な理由

α雄除去実験では、「
 いう可能性が残ってしまうから。」

「ためにα雄が勝つたと



ある縄張り(縄張りAとする)のα雄を捕獲して網かごに入れて、別の縄張り(縄張りBとする)まで持って行く。縄張りBのα雄を捕獲して別の網かごに入れて、空になった縄張りBに縄張りAのα雄をリリースする。縄張りAのα雄が縄張りBを占有したところで、捕獲していた縄張りBのα雄をリリースする。二頭で起こる出巴飛翔の結果を記録する。この実験を七回繰り返す。わかりやすくするため、別の縄張りに連れてこられた雄をアウェイ雄、自分の縄張りの保持者をホーム雄とよぶことにしよう。この実験に用いたアウェイ雄とホーム雄は、ど

ちらもα雄なので、対戦者の間に系統的な身体能力の差はない。差があるのは、過去に自分が保持してきた縄張りか(保持期間丸一日以上)、今やってきたばかりの縄張りか(保持時間平均一五分)の差である。

〔中略〕

さて、α雄交換実験の結果は、すべての試行において、ホーム雄がアウェイ雄を追い出して、縄張りを取り返した。この結果から、本来に、過去にその縄張りを占有した時間の長い個体が、縄張り争いに勝っていることが明らかになった。相手を攻撃するわけでもないチヨウウなのに、特定のα雄が縄張り争いに勝ち続けられるのは、その縄張りに対する動機づけが高いからである。

(竹内剛『武器を持たないチヨウウの戦い方』による)

三 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

中学一年生の「少年」は、市立図書館近くの喫茶店の右奥の窓辺の席に毎週木曜日の午後三時頃いつも座っている女性を「本当のお母さん」だと思っている。少年の実母は少年を産んですぐに二四歳で亡くなっており、その事実を少年は小学六年生の春に知ったが、喫茶店の女を「本当のお母さん」だと思っただけで、亡くなったという事実自体が嘘ではないかと疑うようにさえなり、毎週木曜日は喫茶店の外からその女性を見つめているが声を掛けられずにいる。一方、喫茶店に座る三一歳の「女」は一年ほど前から妻子のいる眼科医の男性との許されない恋愛関係にあり、喫茶店は「男」との待ち合わせの場である。「女」は三ヶ月前から毎週のように自分を見つめる少年に気づき、少年を相手の男性の子供だと思っただけで心を痛めるようになっていた。以下は、「本当のお母さん」に自分の気持ちを伝えようと決意した「少年」と、「男」との関係に決着をつけようと思っっている「女」が喫茶店で出会う場面である。

目が合うと、二人は、通りを歩き交う車に何度となく遮られながら、互いの顔を打ち守った。(あ)

少年は、時間が素早く自分から遠ざかってゆくような*1恍惚と、今すぐにでもその場から走り去ってしまいたくなるような緊張とに襲われ、身を震わせた。乾いた唾液を集めて無理にも呑み、気を確かに持とうと努めた。たまたま、立っていた歩道に①自転車が近づき、忙しなくベルを鳴らしたので、彼は、一旦女から目を逸らし、後ろに退いた。そして、それをきっかけとして、下を向いたまま前に進むと、信号が変わるのを待ち、横断歩道を渡り始めた。
*2鬱血した指先に急に血が通い始めた時のように、彼の体からは、一瞬静かに熱が引き、次いでその全体が騒音に赤く色づいてゆくのを感じられた。木々に隠れて、女の姿が見えなくなると、少年は大きく息を吐き、右手を胸に宛った。そうして何かで抑えておかないと、心臓の鼓動の激しさに今にもそこが破れてしまいそうだった。喫茶店に向かって、公園の横をまっすぐに歩いた。木々が視界から去り、塀が退き、少しずつ建物が見えてくる。少年は、右手

女は決断しなければならぬと感じた。こんなことは、今日で最後にしてやるべきだった。店から出ていこうか？ 父親が来る前にうまく話を終わらせられるだろうか？……その時女は、近づいてくる自転車に少年が危うくぶつかりそうになったのを見て、覚えが小さく声を上げた。幸い、直前で身をかわして無事だった。そして、ほっと胸を撫で下ろすと、今度は信号を渡り始めた彼を見て、別の「B」に捕らわれた。何時もとは、様子が違う気がした。こちらに来ようとしているのではあるまいか？ それでも構わなかったが、父親と鉢合わせさせたくなかった。或いは、そのつもりなのだろうか？ ここで一緒に彼の来るのを待とうとしているのだろうか？少年の姿が丁度見えなくなるところで、ウェイトレスがアイスコーヒーを持ってきて、序に一旦カウンタに戻り、取ってきた水差でコップになみなみと水を注ぎ足した。ストローの紙袋を破ってコーヒーに挿し、垂らす程度にミルクを入れてよ

をまた下に下ろして、ズボンの布を強く握った。^{*}3腕時計は、今はまた手首から滑り落ちて、手の途中に嵌ったままになっている。窓枠が見え、窓が見えると、すぐに女の姿が目飛び込んできた。彼女もまた、彼の現れるのを待ち構えていたかのよう

に、こちらに視線を向けている。

〔中略〕

ドアの前に立って、中に^{*}4這入るのを一瞬躊躇った時、白昼の明かりを背景に、そのガラスに映し出された自分の顔が、逆光で撮影した写真のように暗く見えた。まるで他人のようだった。少年は、強張ったようなその表情をどう和らげて良いかわからず、ただ汗だけを拭って、取っ手を掴み、

「^{*}5」。

店内に、ドアの上部に取りつけられた鐘の音が鳴り響いた。(5)

その揺れてぶつかり合う音の大きさが、少年を怯えさせた。

女は咄嗟に振り返って、少年の訪れを従業員がどう受け止めるかを^{*}8危惧した。

奥のカウンターからは、「いらつしやいませ。」という声が同時に二つ聞こえた。客は、女の外に、そこで店長と話し込んでいる主婦らしき女が一人いるだけである。(5)

少年は、すぐ様、右手の窓際の席を見遣った。そしてじつとこちらを見ている女の視線と^{*}5逢着した。

すぐに視線を戻して、少年の方を見遣った。彼もまた、怖々というような様子でこちらを振り返った。

若いウエイトレスは、そうして入口に佇み、何時も店長と噂している例の女と無言で見つめ合っている少年を不審らしく眺め、「お一人様ですか？」と声を掛けた。(え)

少年は、その声に驚いたように振り返り、何も言わずに頷き、すぐに^{*}2それを打ち消すように首を横に振った。

女は、少年の動揺を看取り、自分から、知り合いですと言ってやるべきだろうかと思いついた。

店内には、映画のBGMのような甘いオーケストラの曲が流れていたが、音量は絞られていて、人の声は室内によく響いた。

ウエイトレスは、少年がそのまま、女の方に向かって歩き出したのを見て、知り合いなのかしら？ という風に首を捻りつつ、カウンターに戻っていった。そして、とにかくもコップに水を注いだ。

テーブルの側にまで来ると、少年は、何も言わずに立ち止まった。女はその顔を静かに見上げた。ウエイトレスは、二人の様子を眺めながら、水を持っていった良いものかどうかと思い迷っている。(お)

女はほどなく、何か用？ という風に小さく小首を傾げた。口許には微かに笑みらしきものが仄めいていた。少年は声を発しようとして唇を密かに舌で濡らした。発せられるのは、ただ一言で良い。ただ一言、呼び掛けるだけで良い筈だった。早くしなければ、ウエイトレスが来てしまう。その前に言ってしまうなければ。そう思う、「あの、……」と口を開きかけた時、

女は、その間を持って余して辛うじて首を傾げてみせた。そして、そこに無意識に添えられた大人らしい笑みを「C」に感じて戸惑った。自分は、この少年に謝罪しなければならぬ立場の筈であった。その彼にそんな風に微笑みかけてしまうなんて。……とにかくも、椅子に座ってもらおうと思った。話はそれから落ち着いてすべきだ。そう考えて、身振りで席を勧めようとした時、

女の手が、誤って、水の這入ったガラスのコップを勢よく前に倒した。「あつ、」と声を上げ、急いで元に戻したが遅かった。テーブルは水浸しになり、倒れた勢いで飛び出した氷が、続け様に床の上に滑り落ちた。女は、急いでおしぼりを取り、すつかり*6狼狽して、テーブルの上の水を無闇にそれで押さえつけた。少年は、その予想だになかった出来事にどうして良いのか分からず、咄嗟にその場にしゃがみ込むと、水が垂れ落ちてくるテーブルの下で、床に散らばった氷を拾い集めた。

女は、思わず、「あ、いいのよ。」と声を掛けた。初めて聞くその声に、少年はサッと立ち上がった。そして、自分が何か、まったくとんちんかんなことをしてしまったように感じて、頬を紅潮させ、手の中の「a」を隠すように握り締めた。

その時、異変を知ったウエイトレスが、手に布巾を二枚持って、「大丈夫ですかあ？ コップ、割れませんでした？」と二人のところまで寄ってきた。そして、立ち尽くす少年を何気なく振り返った。(か)

③その*7刹那、何かがはつきりと少年に
終わりを告げた。高鳴る動悸の音が、痛い
ほどに澄んだ。そして、最後にもう一度だ
け女の顔を見ると、

女は咄嗟に、いけない、と思った。そし
て、呼び止めようと顔を上げた時、少年は、
今にも泣き出しそうな顔をして彼女を見つ
め、

④素早く振り返り、そのまま何も言わずに、店から飛び
出していった。

(平野啓一郎『氷塊』による)

〔注〕*1 恍惚―意識がはつきりしないさま。

*2 鬱血―血液の流れが悪くなってたまっている状態。

*3 腕時計―実母方の祖父母から中学入学祝いに贈られた時計。ベルトが大
き過ぎるためすぐにずれ落ちる。

*4 這入る―「入る」と同じ。

*5 逢着―出くわすこと。

*6 狼狽―あわててうろたえること。

*7 刹那―瞬間。

*8 危惧―あやぶみ、おそれること。

問一 空らん「A」く「C」に当てはまる語として最も適切なものを、それぞれ
一つ選び、記号で答えなさい。

〔A〕

ア 激しくそれを揺らし始めた

イ 恐る恐るそれを横に滑らせた

ウ 勢いよくそれを前に押し出した

エ ゆっくりとそれを手前に引いた

〔B〕

ア 緊張

イ ためらい

ウ 疑念

エ 戸惑い

〔C〕

ア 不気味

イ 無鉄砲

ウ 不謹慎

エ 無頓着

問二 空らん「a」(中段)く「b」(下段)に当てはまる一文字の語を、それぞ
れ本文中から抜き出して答えなさい。

問三 本文からは次の一文が抜け落ちている。本文中の(あ)く(か)のうち、どこに入れ
るのが最も適切か、記号で答えなさい。

真っ白な沈黙がそれぞれの体を染め抜き、その深い中心から心臓の鼓動の波が打ち
寄せた。

問四 — 線部①「自転車近づき、忙しくベルを鳴らした」とありますが、この場面において「自転車のベル」が果たしている役割の説明として最も適切なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 時間の流れから取り残されていると感じさせるほど女と見つめ合っていた少年に長い時間が過ぎたことを悟らせ、次の行動を促す役割。

イ 女の顔を見つめる中で平常心を失いかけている少年を現実に取り戻し、次の行動に移行させる役割。

ウ 緊張の中、気を確かに持とうとしている少年に対して、先行きが危ういことを暗示しつつも、次の行動に引き込む役割。

エ 自分の世界に入り込んでいる少年に対して、現実世界は忙しく動いていることを知らせ、次の行動にせき立てる役割。

問五 二カ所の波線部はそれぞれ「少年」と「女」の様子であるが、心の動きには共通する点がある。どのような点が共通するか、三〇字以内で答えなさい。

問六 — 線部②「それ」は何を指しているか。本文中の言葉を使って二十四字で答えなさい。(、や。や？や「」を使ってはいけません。)

問七 — 線部③「その刹那、何かははっきりと少年に終わりを告げた」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア ウェイトレスが少年と女の間に入って入り、少年のとんちんかんな行動を見咎めた瞬間、少年は情けない自分には女への思いを伝える資格はないと悟ったということ。

イ ウェイトレスが少年と女の関係に異変が起きたことに気づいたことに少年が感づいた瞬間、二人の関係が終わり、ただの他人同士に戻ってしまったということ。

ウ ウェイトレスが少年と女のトラブルを解決しようと介入してきた瞬間、少年と女の愛の空間は崩壊し、少年が自分の気持ちを語る雰囲気は損なわれたということ。

エ ウェイトレスが少年と女の空間に入り込んできたことに少年が気づいた瞬間、二人だけの時間が終わり、少年が自分の気持ちを伝える機会が失われたということ。

問八 — 線部④「素早く振り返り、そのまま何も言わずに、店から飛び出していった」ときの「女」の気持ちを八〇字以内で答えなさい。

問九 本文の表現や構成の説明として適切なものを、次のア～カから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 「あの人」「お母さん」「例の女」などにつけられた傍点ぼうてんは、その言葉に対する「少年」の強い気持ちを表している。

イ 「女」が「少年」に話しかけた「何か用？」という言葉を会話文として描かないようにするなど、心の動きに注目させるような表現が徹底されている。

ウ 「少年」の物語と「女」の物語という二つの異なる物語が交わることで、小説世界に厚みと深まりをもたらしている。

エ 上段は「少年」の視点から、下段は「女」の視点からそれぞれ描かれており、男女のすれ違いと運命の残酷ざんくさが巧みに表現されている。

オ 「這入った」「咄嗟」「刹那」といった難解な漢字表現をあえて用いることで、読者を翻弄ほんろうし、人生はとらえがたいものだということを暗に示している。

カ 出来事や情景、心情が時間の流れに沿って丁寧に描かれており、読者は「少年」や「女」の気持ちをイメージしつつ読み進められるようになっている。

